

## 大学における家政教育の現状と課題

○鈴木真由子\* 飯田範子\*\* 岡部道子\*<sup>3</sup> 加地芳子\*<sup>4</sup> 佐藤文子\*<sup>5</sup>  
 清水 歌\*<sup>6</sup> 田中恒子\*<sup>7</sup> 野田文子\*<sup>7</sup> 藤枝恵子\*<sup>8</sup> 湯川聰子\*<sup>9</sup>

(\*新潟大 \*\*筑波大・院 \*<sup>3</sup>昭和学院短大 \*<sup>4</sup>京都教育大 \*<sup>5</sup>上越教育大  
 \*<sup>6</sup>聖母女学院短大・非 \*<sup>7</sup>大阪教育大 \*<sup>8</sup>元共立女子大 \*<sup>9</sup>奈良教育大)

【目的】本研究では、家政教育の大学における位置づけや、今後どのように志向されているのかを把握する。すなわち、本研究の目的は、家政学関連科目が大学教育における一般教育科目としてどのような開設状況にあるのか、また、関連する内容について学部関係諸氏がどのような意識を持っているのかを捉え、家政教育の課題を明らかにすることである。

【方法】郵送法・自己記入式による調査を、平成9年5月～6月に実施した。調査対象は国公立の四年制大学の学部で、家政学部系(51)・教育学部系(55)・その他の一般学部系(298)に調査票を送付した。回収率は、それぞれ80.3%・83.6%・61.1%であった。調査項目は、①3系列共通項目(家政学関連科目の開設状況等)②家政学部系・教育学部系共通項目(家政教育のイメージ等)③個別項目で構成した。

【結果と考察】家政学関連科目は一般教育科目として3系列全体の約6割の学部で多様に開設されており、学内・学部内に運営組織がある場合の開設率が高かった。開設していない理由として、家政学部系・教育学部系では必要感はあるが実現困難な状況がうかがえた。一方、一般学部系では「考えたことがない」等の消極的な回答が目立ち、家政教育に関する認識不足が示唆された。また、各系列ごとの個別の問題点が明らかになり、家政教育の今後の方向性を考究する上で解決すべき課題が把握できた。